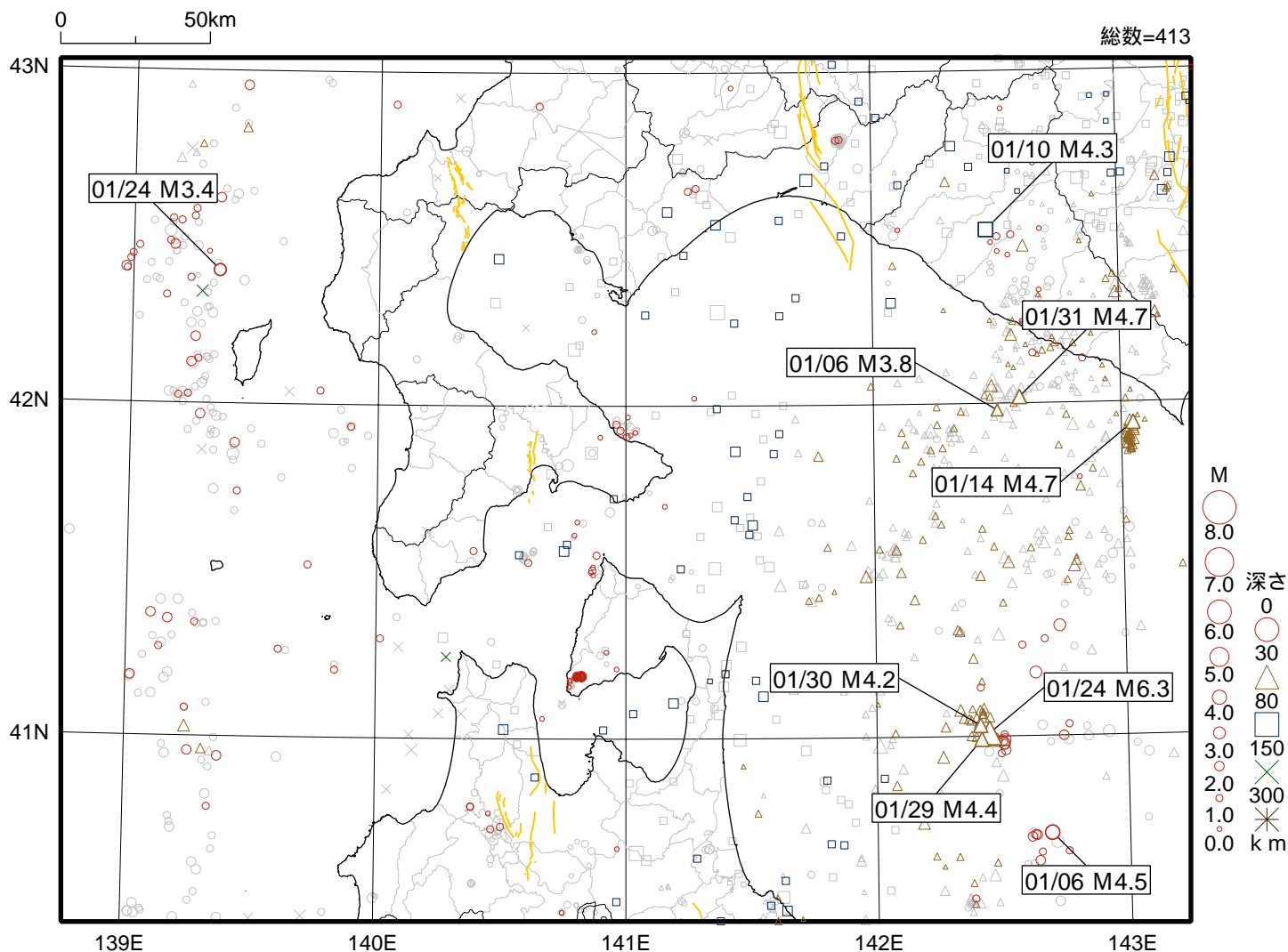


渡島・檜山地方の地震活動図

2018年1月1日～2018年1月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

地震概況(2018年1月)

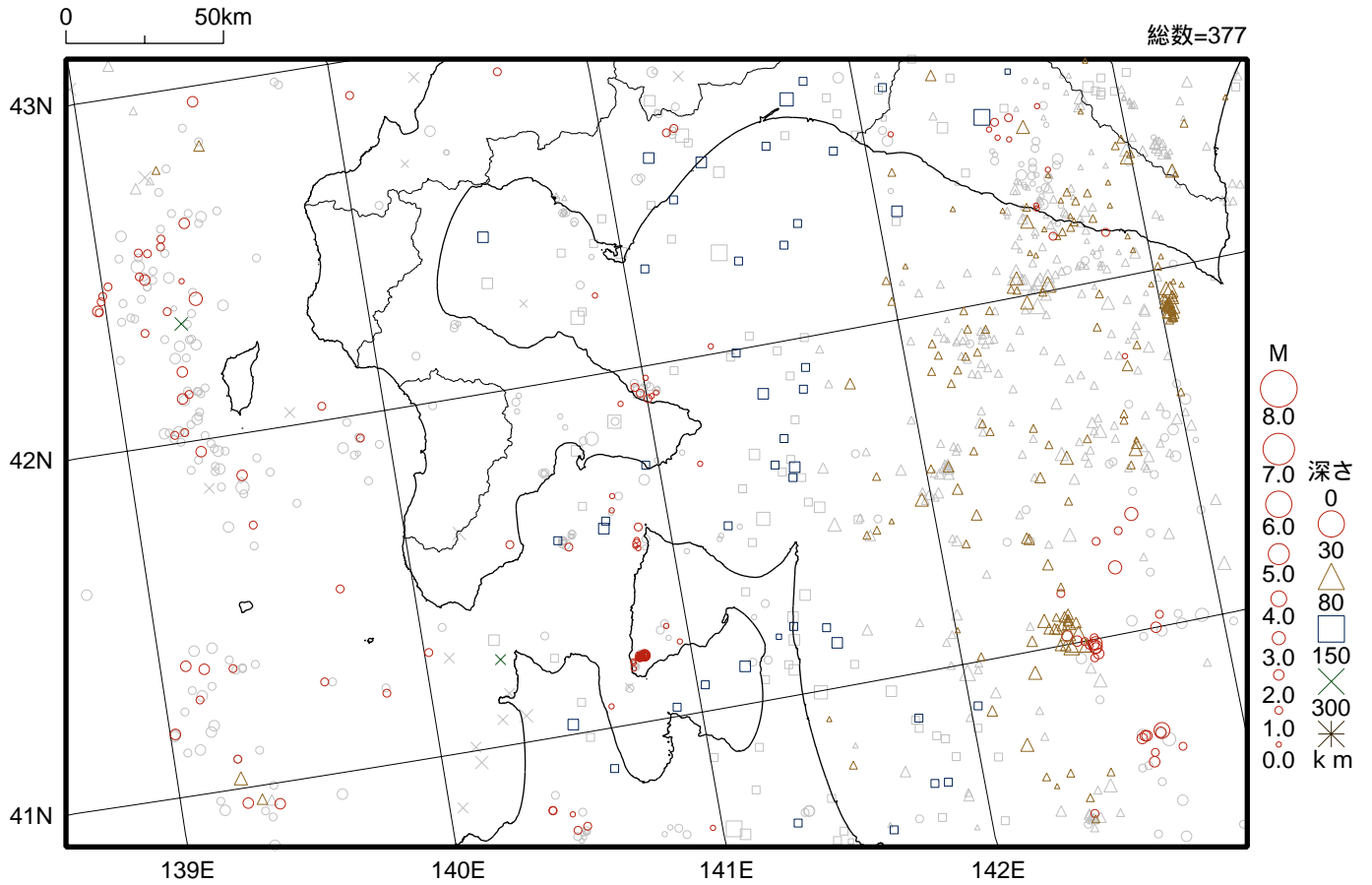
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は10回(前月は6回)発生しました(「震度1以上を観測した地震の表」参照)。

1月24日19時51分に青森県東方沖でM6.3の地震が発生し、函館市の大森町、泊町、新浜町、日ノ浜町で震度3を観測したほか、渡島・檜山地方の広い範囲で震度2から1を観測しました。その後、この地震の震源付近では、函館市泊町で震度1を観測した地震が2回発生しています。

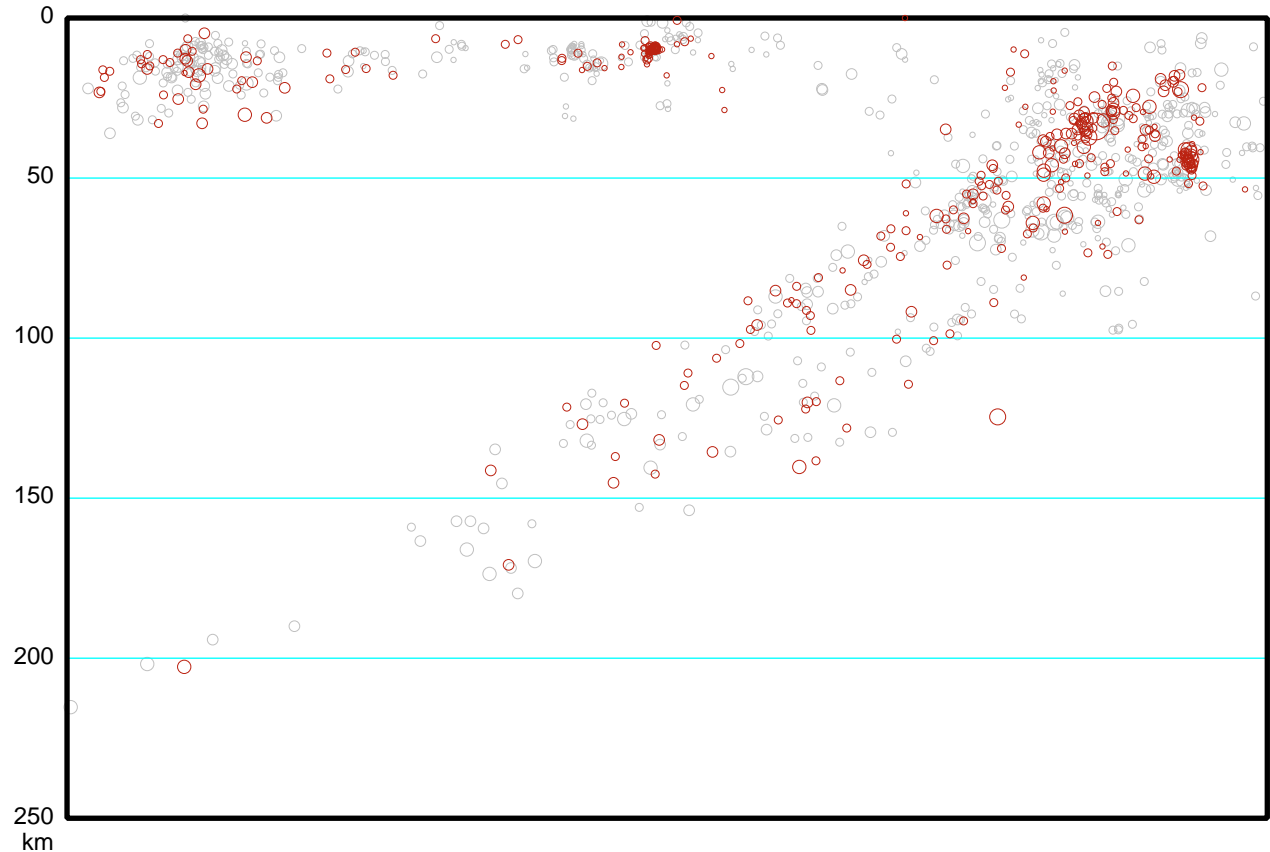
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<http://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2018年1月1日 ~ 2018年1月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

震度 1 以上を観測した地震の表 (2018年1月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2018年 1月 6日 渡島地方	13時06分 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (06) 函館市川汲町 * (06)	41 ° 58.7 N	142 ° 30.0 E	49 km	M3.8
2018年 1月 6日 渡島地方	22時45分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (13)	40 ° 42.5 N	142 ° 41.4 E	22 km	M4.5
2018年 1月10日 渡島地方	20時03分 震度 2 震度 1	日高地方中部 函館市新浜町 * (20) 函館市泊町 * (13) 函館市川汲町 * (11) 鹿部町宮浜 * (09)	42 ° 31.3 N	142 ° 27.9 E	125 km	M4.3
2018年 1月14日 渡島地方	18時07分 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (19) 函館市新浜町 * (14) 函館市川汲町 * (11) 鹿部町宮浜 * (06)	41 ° 56.2 N	143 ° 02.8 E	41 km	M4.7
2018年 1月24日 渡島地方 檜山地方	12時24分 震度 1 震度 1	北海道南西沖 八雲町熊石雲石町 * (06) せたな町瀬棚区北島歌 * (05)	42 ° 23.9 N	139 ° 21.0 E	18 km	M3.4
2018年 1月24日 渡島地方	19時51分 震度 3 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市大森町 * (25) 函館市泊町 * (33) 函館市新浜町 * (33) 函館市日ノ浜町 * (25) 長万部町平里 * (17) 函館市美原(22) 函館市尾札部町(15) 函館市川汲町 * (20) 七飯町桜町(20) 七飯町本町 * (20) 鹿部町宮浜 * (18) 渡島森町御幸町(17) 渡島森町砂原 * (20) 渡島北斗市中央 * (24) 渡島北斗市本町 * (16) 福島町福島 * (18) 知内町重内 * (23) 木古内町木古内 * (19) 八雲町上の湯(08) 八雲町熊石雲石町 * (09) 渡島松前町福山(09)	41 ° 00.5 N	142 ° 26.8 E	34 km	M6.3
檜山地方	震度 2 震度 1	渡島松前町清部(06) 知内町小谷石(12) 上ノ国町大留 * (20) 厚沢部町木間内 * (17) 厚沢部町新町 * (21) 乙部町緑町 * (18) せたな町北檜山区徳島 * (17) 檜山江差町姥神(12) 檜山江差町中歌町 * (11) 上ノ国町小砂子 * (05)				
2018年 1月28日 渡島地方	04時43分 震度 2	岩手県沖 函館市泊町 * (16)	40 ° 07.1 N	142 ° 25.4 E	35 km	M4.9
2018年 1月29日 渡島地方	12時59分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (10)	40 ° 59.4 N	142 ° 25.0 E	37 km	M4.4
2018年 1月30日 渡島地方	08時42分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (10)	41 ° 01.9 N	142 ° 24.7 E	32 km	M4.2
2018年 1月31日 渡島地方	05時11分 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (21) 函館市新浜町 * (23) 函館市川汲町 * (20) 長万部町平里 * (05) 函館市美原(05) 函館市尾札部町(08) 七飯町本町 * (05) 鹿部町宮浜 * (08) 福島町福島 * (05)	42 ° 01.1 N	142 ° 35.4 E	62 km	M4.7

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

セントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

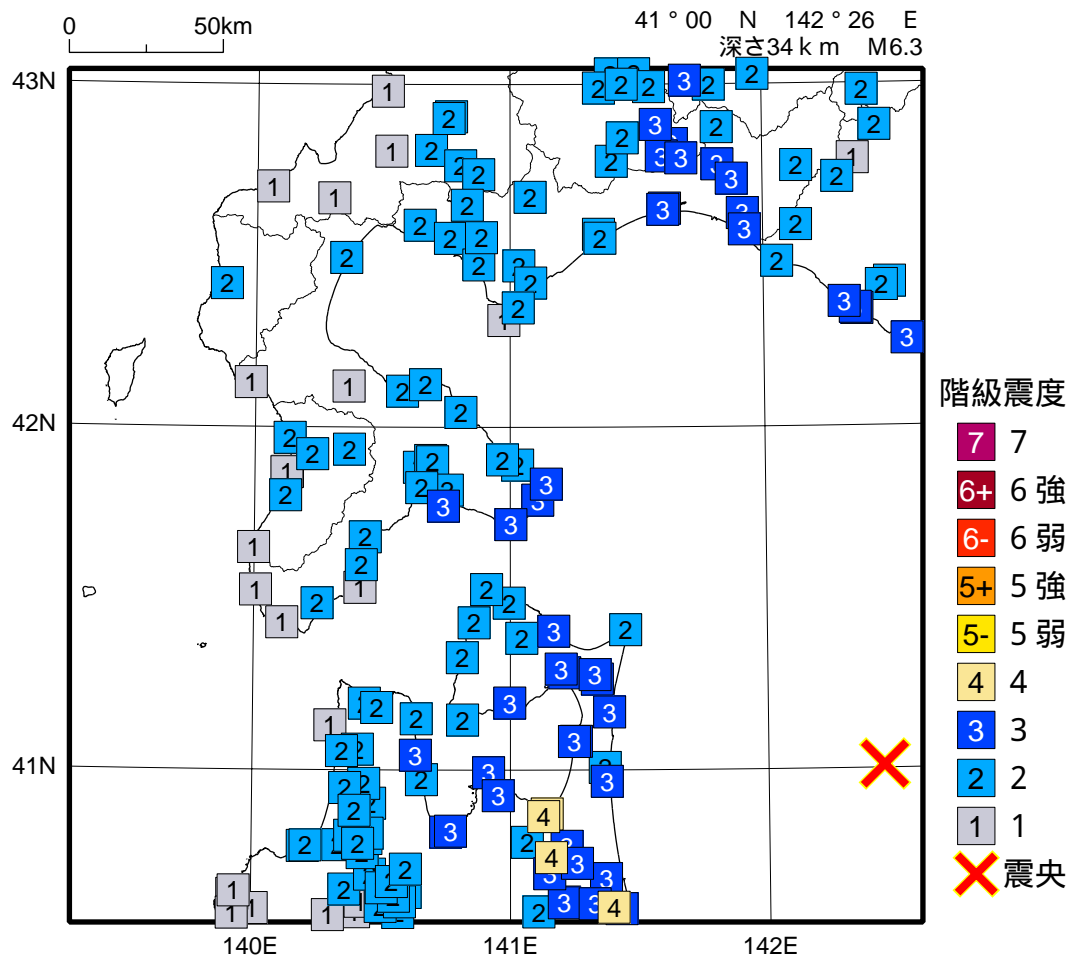
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

2018年 1月24日19時51分 青森県東方沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～地震発生のしくみとプレートテクトニクス～

地震は地下の岩盤がずれることによって発生する現象です。例えば、木の枝を持って曲げようと力を入れると、反発して跳ね返ってきます。また、木の枝が力に耐えられなくなると、ひびが入ったり折れたりします。このようなことが地下の岩盤にも起こっています。この地下の岩盤にかかる力は、地球表面を覆うプレートが深く関わっていると考えられています。

地球の内部は中心から、核（内核、外核）、マントル（下部マントル、上部マントル）、地殻という層構造になっていると考えられています（図1）。このうち、地殻と上部マントルのうち地殻に近い部分は硬い板状の岩盤となっていて「プレート」と呼ばれています。地球の表面は十数枚のプレートに覆われています。

プレートは地球内部で対流しているマントルの上にあるので、マントルの対流の力で少しずつ動いています。プレートどうしがぶつかったり、すれ違ったり、片方のプレートがもう一方のプレートの下に沈み込んだりしているため、プレートの境界付近には強い力がかかっています。この力によって地震が発生しているのです（図2）。

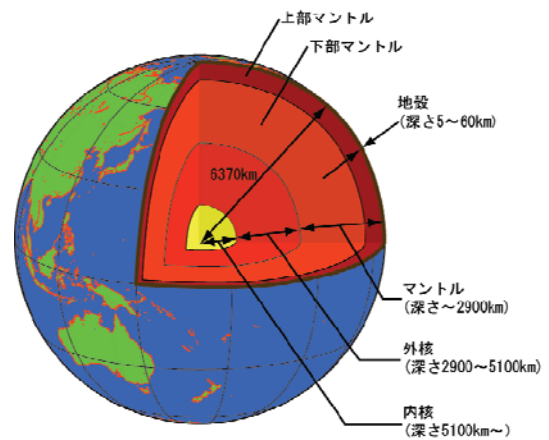


図1 地球の内部構造の模式図

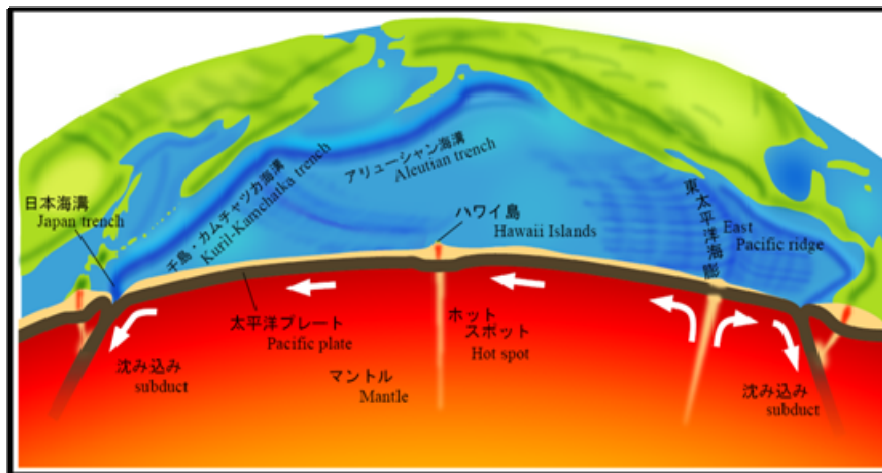


図2 プレート運動の模式図

世界の地震発生場所を見てみると、地震が発生する場所と発生しない場所がはっきりと分かれています。地震が多く発生する場所はプレート境界であると考えられている場所です（図3）。ただし、全ての地震がプレート境界で発生しているわけではなく、ハワイや中国内陸部といったプレート内部で発生する地震もあります。

日本周辺では、海のプレートである太平洋プレート、フィリピン海プレートが、陸のプレート（北米プレートやユーラシアプレート）の方へ1年あたり数 cm の速度で動いており、陸のプレートの下に沈み込んでいます（図4）。このため、日本周辺では、複数のプレートによって複雑な力がかかっており、世界で発生する地震のほぼ1割にあたる地震が発生しています。

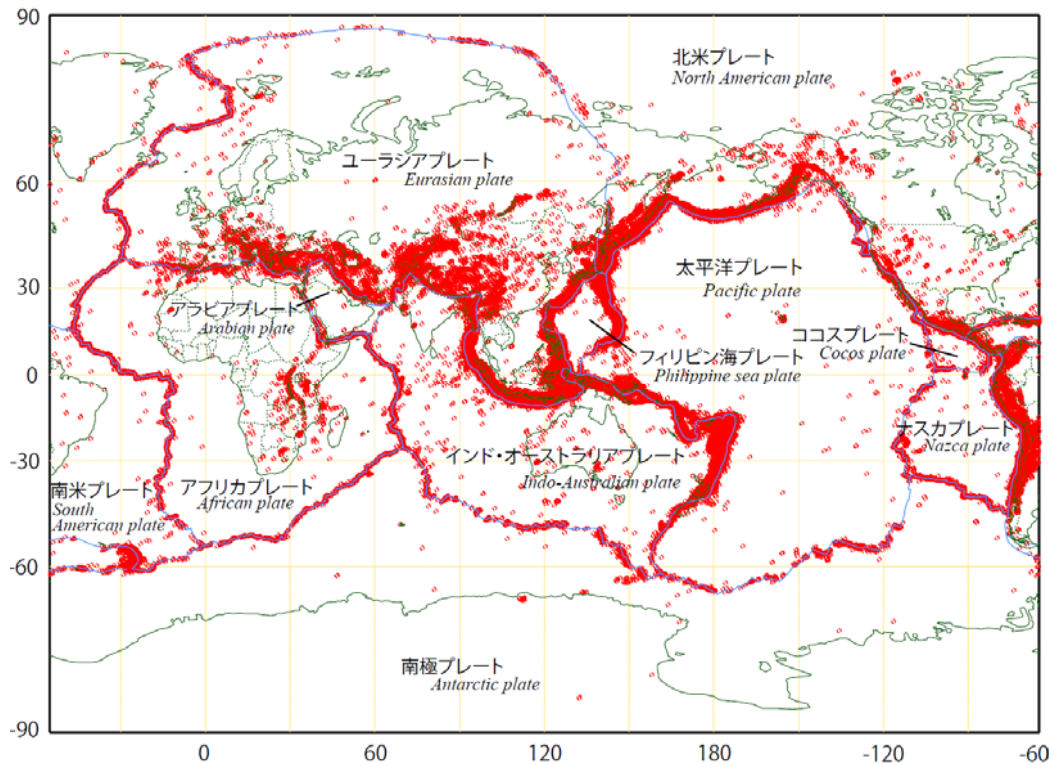


図3 世界の主なプレートと地震の分布

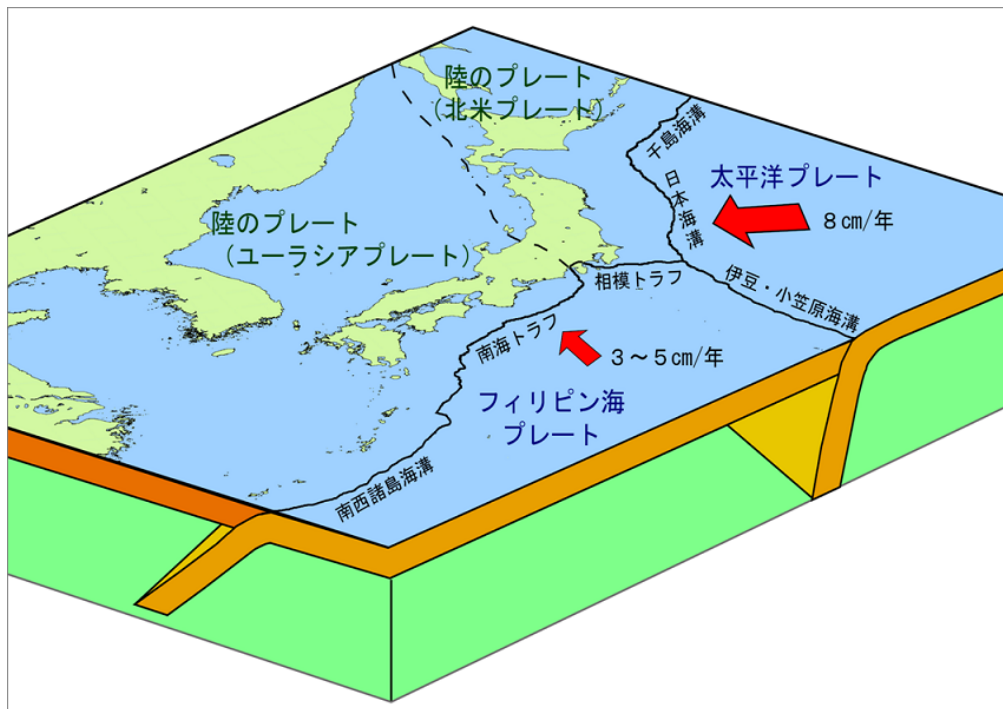


図4 日本付近のプレートの模式図

図は全て気象庁 HP http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html